

工事内容書【窓等開口部の断熱改修工事】

記載例	番号	施工箇所	改修後				熱貫流率 (W/m <sup>2</sup> ・K)	窓サイズ(mm)		面積 (m <sup>2</sup> )	補助金額
			施工方法	建具の種類	建具の材質	ガラスの仕様		幅(W)	高さ(H)		
記載例	窓①	2階南洋室	内窓設置	二重構造	外:アルミサッシ 内:樹脂	外:単板ガラス(既存) 内:単板ガラス(新規)	2.33以下	1700	1500	2.55	14,000
記載例	窓②	LDK	外窓交換	一重構造	樹脂	低放射複層ガラス (12mm)	3.49以下	2000	1800	3.6	20,000
記載例	玄関	玄関(引戸)	ドア交換 (引戸)	一重構造	木製	低放射複層ガラス (12mm)	3.49以下	1500	2000	3	25,000
合計金額										0	円

※1 「番号」は施工図面、出荷証明書に記載の番号と一致させてください。  
 2 「施工方法」欄には、窓の場合は「内窓設置」「外窓交換」「ガラス交換」の別を、ドアの場合は「ドア交換」と記載してください。  
 3 「建具の種類」「建具の材質」「ガラスの仕様」は「判断基準」を参考に記載してください。(建具の種類は、ガラスではなく建具の枚数を指しません。)  
 4 「判断基準」に記載のない「建具の種類」「建具の材質」「ガラスの仕様」を採用する場合は、「判断基準」記載の熱貫流率を満たすことを証明する資料を添付してください。  
 5 窓サイズは、内窓設置及び外窓取替の場合は建具枠の寸法を、ガラス交換の場合はガラスの寸法を記載します。また、面積欄は小数点第3位以下を切り捨てて記入してください。(内窓及び外窓は、セット単位で面積を計算します。)  
 6 本様式に記載しきれない場合は、必要に応じて行やページを追加してください。

工事内容書【屋根又は天井, 壁, 床の断熱改修工事】

住宅の構造		鉄筋コンクリート造(内断熱工法)								
番号	施工部位及び箇所	改修後								補助金額
		断熱材の施工方法	断熱材の種類	断熱材記号(A-E)	熱伝導率 W/(m <sup>2</sup> ·K)	敷設厚 (mm)	熱抵抗値 W/(m <sup>2</sup> ·K)	施工面積 (m <sup>2</sup> )	断熱材使用量 (m <sup>3</sup> )	
<b>【壁】</b>		壁全体で、全部位120,000円または部分60,000円のいずれか一つしか申請できません。								
記載例	全体	充填断熱工法	吹込み用グラスウール(GW-131K)	D	0.040	240	6.0	15.0	6.0	120,000
<b>【屋根・天井】</b>		屋根・天井全体で、全部位36,000円または部分18,000円のいずれか一つしか申請できません。								
記載例	壁①～③、①階南面	充填断熱工法	吹込み用グラスウール(GW-131K)	C	0.035	130	3.7	20.0	6.0	36,000
記載例	壁①～③、①階南面	充填断熱工法	既設:吹込み用グラスウール(GW-131K)	A-1	0.052	50	1.0	20.0	3.0	18,000
<b>【床】</b>		床全体で、全部位60,000円または部分30,000円のいずれか一つしか申請できません。								
0円										

※1 改修方法が施工部位ごとに異なる場合は、【窓等開口部の断熱改修工事】と同様に**施工図面**記載の番号と一致させてください。  
 2 「断熱材の施工方法」「断熱材の種類」「記号」「熱伝導率」「敷設厚」「熱抵抗値」は「判断基準」を参考に記載してください。  
 「判断基準」に記載のない断熱材等を使用場合は、「断熱材の熱抵抗値」と「断熱材の熱伝導率」から必要な「敷設厚」を算出し、その内容を示す資料を添付してください。  
 4 既設断熱材の性能も加える必要がある場合は、一行を利用して性能等を明示してください。  
 5 本様式に記載しきれない場合は、必要に応じて行やページを追加してください。